

有識者

北野 宏明氏(ソニーコンピュータサイエンス研究所 所長)

インタビュー概要

## AI活用の前に

○AIで何ができるかではなく、何をするためにAIを使うかを先に考える必要がある。どんなまちづくりを目指すかによって、AIとの関わり方や使い方が変わっていく。

## AI活用への課題

○AIは、「オープン問題」と呼ばれる条件設定が困難なものは、現時点では運用が難しい。限られた場所の移動や物体の操作など、限られた条件下での運用が適している。

○AIによる自動運転の事故率は、一定の条件下で人間による運転の事故率より低いところまできている。しかし、製造者責任の問題などがあり実用化に至っていない。

## 行政・市民とAI

○市民とAIの付き合い方を行政が考える必要はない。優れたAIシステムは、そもそもその存在が意識されないので、自然に使ってもらえるようにすればよい。

○それよりも、AIの活用に熱心な層とどう付き合い、呼び込むかが重要。

○行政サービスでも供給側(行政)の都合で仕組みづくりをするのではなく、利用者側(市民)の視点に立って検討しなければならない。

国の進めるスマート・シティは供給側に寄っており、インクルージョン・シティの方がよい。

○外国人比率が増えていく中で、多言語翻訳と行政システムの連動などの多様性対応にプライオリティを置くべきではないか。

## まちづくりとAI

○多様な人が多様なライフスタイルを実現することが重要。テレワークが必要な人やハンディキャップのある人、外国人など、いろいろなバックグラウンドの人がいろいろな働き方やライフスタイルを実現できることが求められており、それを技術的に可能にするためにどういうインフラが必要で、どういう行政サービスが必要で、どのような企業群が行った方がよいのかということが重要。

○法や支援制度が技術進展に追いついていない部分がある。そうした部分を千葉市が先回りして整備しておけば、優秀な人材や技術が集まる可能性がある。これからは自治体間も競争の時代で、サイバーパンクシティを目指すなどの尖った取り組みが必要。